

## 埋蔵文化財発掘調査事業

### ①上之土地区画整理地内遺跡発掘調査

#### 1 実施の状況

計4遺跡（前中西遺跡・諏訪木遺跡・上之古墳群・箱田氏館跡）について、4次にわたって、計2, 160㎡の発掘調査を実施した。

#### 2 前中西遺跡（第一次）

(1) 期間 平成23年5月9日～7月31日

(2) 面積 390㎡

(3) 遺構・遺物

弥生時代：竪穴住居跡3軒、土器棺墓2基、弥生土器（壺・甕等）、石器（磨石・石皿等）、管玉4点

古墳時代：溝跡1条、土師器（器台・高坏・埴）、木製品（槽）

奈良・平安時代：竪穴住居跡2軒、溝跡1条、須恵器（稜碗）、土師器（坏等）、木製品（経巻具、木簡か）

(4) 特記事項

弥生時代中期後半～後期に帰属する土器棺墓より碧玉製管玉4点を検出した。古墳時代は、前期とみられる溝跡より、土師器3点と木製品槽が共伴して出土し、水辺の祭祀が行われた可能性が考えられた。

奈良・平安時代と判断した溝跡1条からは、漆のパレットとして使用された須恵器稜碗（8世紀、南比企産）・土師器坏が検出された。併せて、木製品経巻具と木簡上端部片とみられる木製品を検出している。木簡には墨書がみられ、希薄であるが「奉」の異体字の可能性もある。この溝跡は、底面に凹凸があり、湧水箇所であったとみられる。このことから、湧水点における水辺の祭祀の痕跡と考えられる。

なお、熊谷東小学校6年生を対象にした遺跡見学会を実施した。

#### 3 諏訪木遺跡・上之古墳群

(1) 期間 平成23年8月29日～平成24年1月13日

(2) 面積 1, 250㎡

(3) 遺構・遺物

弥生時代：方形周溝墓5基、弥生土器（壺・高坏等）

古墳時代：竪穴住居跡4軒、古墳（周溝）2基、土師器（台付甕等）、円筒埴輪片、

奈良・平安時代：溝跡、須恵器片、土師器片

中世：区画溝1条、井戸跡1基、池状遺構1基、青磁、白磁、かわらけ、板碑、五輪塔部片、木製品（井戸枠）

近世：溝跡、井戸跡2基、木製品（井戸枠）、獣骨

(4) 特記事項

上記のように、時代が錯綜して重複しており、見極めが難しい状況であったため、時期や遺構の判断は、現状での判断である。

調査は東西で分割し、反転しての調査を実施した。

弥生時代は、中期後半に帰属すると考えられる方形周溝墓5基を検出し、いずれも四隅切れのタイプであった。その内2基より弥生土器を検出した。

古墳時代は、前期の住居跡3軒と後期の住居跡1軒を検出したほか、上之古墳群の円墳（周溝のみ）とみられる古墳を2基確認した。

中世は、区画溝としたL字状の溝より、青磁・白磁・かわらけが出土している。区画内では、木枠が残存する井戸跡1基を検出した。また、東側の隣接地において池状遺構を検出しており、かわらけ・板碑が一括して廃棄されたような状況が確認された。これらの状況から、この区画は館跡の可能性が考えられる。なお、『新編武蔵野風土記考』には、近隣地に秋葉七郎（成田氏の一族）の館の所在の記述があり、過去の成果と併せて、検証の必要がある。

近世は、複数の溝と井戸跡が確認された。その内井戸跡1基には導水溝が付属しており、水路の水源として機能があった可能性がある。

なお、成田小学校6年生を対象とした遺跡見学会を実施した。

#### 4 前中西遺跡（第二次）

(1) 期間 平成23年11月16日～平成23年12月21日

(2) 面積 230 m<sup>2</sup>

(3) 遺構・遺物

弥生時代：住居跡2軒、弥生土器（壺・甕等）

古墳時代：住居跡4軒、土師器（高坏・壺・埴等）

弥生時代～平安時代：溝跡2条、弥生土器、須恵器（蓋・坏等）、土師器（坏・甕等）

(4) 特記事項

古墳時代中期の住居跡と考えられる竪穴状遺構から、土師器高坏が少なくとも8個体以上検出され、さらに土師器壺・埴等も検出された。この住居跡は、溝状の狭小調査区だったため、全体像は把握できなかったが、出土した土器の特徴から判断して、祭祀色が濃いと考えられ、近接して所在する水路と考えられる幅広の溝跡と併せて、水辺の祭祀場の機能をもっていたと推定される。

なお、熊谷地域においては、古墳時代中期の遺構の発見例が少ない中、東の近接地でも、住居跡や高坏を出土した溝跡が検出されており、今後事例が増える可能性が高く、当該期の様相を考える上で貴重な成果が得られたと考える。

#### 5 箱田氏館跡

(1) 期間 平成24年1月16日～平成24年3月13日

(2) 面積 290 m<sup>2</sup>

(3) 遺構・遺物

縄文時代後・晩期：遺物包含層、竪穴住居跡1軒、縄文土器（深鉢、注口土器等）、土製品（土偶、耳飾）、石製品（打製

石斧・磨製石斧・砥石・垂飾か 等)

弥生～古墳時代：方形周溝墓 1 基、ヒトの歯 3 点、勾玉 1 点、ガラス玉 3 点、管玉 3 点、木製品 4 点

#### (4) 特記事項

調査は、東西に分かれた 2 地点を同時に実施した。

縄文時代後・晩期は両地点とも遺物包含層が形成されていた。後期の土器群を主体として、石器・土製品が大量に混入している。特殊遺物として、赤彩の残る山形系統の土偶頭部を検出した。東側の調査区は、東・南方向それぞれに地形が落ち込んでおり、その落ち込み箇所に対して、遺物が集中する傾向が窺えた。よって、周囲の調査成果を考慮すると、当該期の遺跡範囲の縁辺部にあたると推測された。

弥生～古墳時代とした方形周溝墓 1 基は、北東側の溝を欠く、「コ」の字を呈する形状であった。なお、主体部及び明瞭に方台部とわかる箇所は無かった。

北西側の溝内の北寄り外側では、溝内埋葬施設を検出した。これは、長さ 2 m・幅 0.6 m・深さ 0.2 m の規模であり、覆土よりヒトの歯 3 点、メノウ製勾玉 1 点、緑色凝灰岩製管玉 2 点（太・細）、蛇紋岩製管玉 1 点、水色ガラス小玉 2 点、群青色ガラス玉 1 点を検出したが、全て一括出土である。また、壁面には小札状の木片が張り付いており、底面には粉末状に劣化した木の痕跡がみられた。さらに、約 1 m 程離れた溝内より、長さ約 1.4 m の板状木製品、長さ約 1.5 m の棒状木製品、長さ約 0.3 m の半截された鋤先状炭化物の計 3 点を、まとまった状態で検出している。なお、ヒトの歯を鑑定した結果、20～30 才代の成人と判明している。上記の検出状況は県内初の事例となったため、定例記者会見で公表したところ、主要新聞社 4 社で記事となった。また、遺跡見学会を 2 月 26 日（日）に実施し、約 400 名の見学者が訪れた。当日は、市・広報広聴課とテレビ熊谷による取材があり、市報 4 月号に見学会の様子が表紙になる予定である。見学会後も資料の送付依頼など反響があった。

出土した木製品類は保存処理及び樹種鑑定、炭化物は放射性炭素年代測定を行なう予定である。ヒトの歯・副葬品類は、江南文化財センターにおいて速報展示（5 月 11 日まで）を行っており、熊谷デジタルミュージアム内の文化財日記ブログにて情報発信している。

本遺跡は試掘調査により範囲拡大がなされた結果、複合遺跡としての箱田氏館跡の名称であるが、名称のイメージと成果の齟齬があり、今後、名称変更または旧箱田氏館跡からの分割などを視野に入れる必要があると考える。

# 前中西遺跡（第一次）発掘調査 1



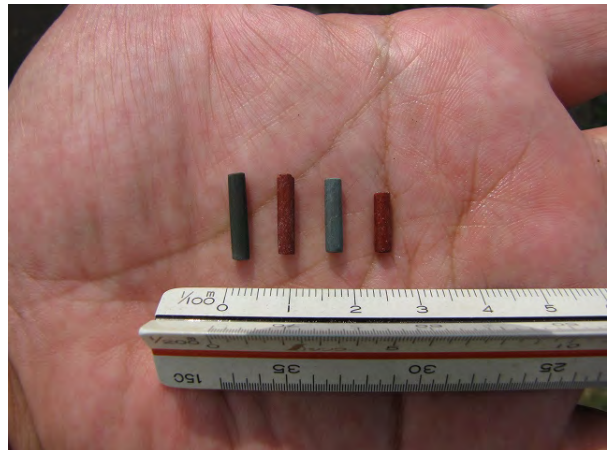
遺跡全景（東から）



弥生時代 竪穴住居跡（南から）



土器棺墓



同左・検出した碧玉製管玉



古墳時代前期 槽、土師器 3 点



発掘調査風景

## 前中西遺跡（第一次）発掘調査 2



奈良・平安時代 水辺の祭祀跡



検出した木簡（裏面）



上記より検出・木製品（経巻具）



検出した木簡（表面） 色調をデジタル補正



上記より検出・須恵器稜碗（漆パレット）



上記より検出・土師器坏（漆パレット）



熊谷東小学校見学会 1



熊谷東小学校見学会 2

諏訪木遺跡・上之古墳群 発掘調査 1



遺跡全景反転前（西から）



遺跡全景反転後（北西から）



円墳周溝跡（南から）



弥生時代中期後半 第3号方形周溝墓



第1号方形周溝墓



第2号方形周溝墓遺物出土状況

諏訪木遺跡・上之古墳群 発掘調査 2



中世 区画溝 (北東から)



区画溝遺物検出状況



池状遺構遺物検出状況 (北から)



同左・かわらけ



同左・板碑



近世 井戸跡検出状況 (北から)



井戸跡・導水溝検出状況 (西から)



成田小学校見学会 1



成田小学校見学会 2

# 前中西遺跡（第二次）発掘調査



弥生時代中期 住居跡



古墳時代後期 住居跡（2軒重複）



古墳時代中期 住居跡



同左 土師器高坏・坩等出土状況



弥生時代から平安時代 溝跡（水路跡）



同左 遺物出土状況



## 箱田氏館跡 発掘調査



縄文時代後期・竪穴住居跡 1 (東から)



竪穴住居跡 2 (南から)



東側調査区遺物包含層 (南から)



東側調査区遺物包含層 (東から)



上記包含層検出・土偶頭部



西側調査区遺物包含層



弥生～古墳時代前期 方形周溝墓



同左・方形周溝墓（南から）



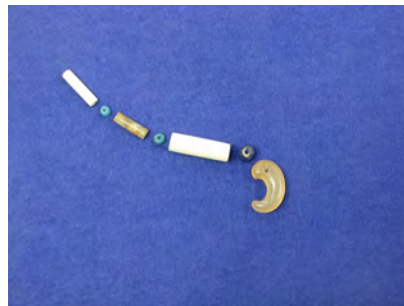
上記より検出・溝内埋葬施設（北東から）



同左・壁面より木片検出



周溝出土木製品（東から）



溝内埋葬施設検出副葬品



溝内埋葬施設検出ヒトの歯



遺跡見学会実施1



遺跡見学会実施2



遺跡見学会実施3

## ②西別府遺跡群・西別府祭祀遺跡確認調査

- 1 所在地 西別府字滝下1563、1564-1
- 2 期間 平成24年2月1日～3月7日
- 3 面積 280㎡（敷地全体）
- 4 遺構・遺物

古墳時代後期（飛鳥時代）～平安時代の河川跡（水路跡）、平安時代後期の水田跡が確認され、土師器、須恵器、木簡や建築部材などの木製品がコンテナ約4箱出土した。

### 6 概要

#### (1) 遺跡について

西別府祭祀遺跡は、熊谷市西別府から深谷市にかけて広がる遺跡で、櫛引台地先端付近及び崖下に所在する水路・低地といった地形に所在する。

調査は、昭和38年度及び平成4年度に低地の水路において、平成18年度及び平成20年度には台地上の湯殿神社境内において実施した。本遺跡は、湯殿神社裏の傾斜地を含めた堀全体の調査により、7世紀中頃から11世紀代にかけての土師器・須恵器等の土器のほか、石製模造品、土錘など遺物が粘土層及び砂礫層から大量に出土し、土器には墨書・刻書が認められた。具体的な祭祀遺構は検出されなかったが、滑石製模造品の出土地点を見てみると、湯殿神社裏手の堀を中心に集中して検出されたことから、この地点が祭祀の中心と推定するに至った。なお、平成4年度調査により出土した石製模造品、土器、土錘の359点は、県指定有形文化財（考古資料）に指定されている。

#### (2) 特記事項（別添資料参照）

今回の調査は、湯殿神社裏の水田面を調査対象とし、遺跡の広がりの確認、深谷市幡羅遺跡（幡羅郡家）から延びる道路遺構の行方、郡家に関わる津遺構の検出を目的に、トレンチによる調査を実施した。

調査の結果、道路遺構及び津遺構の確認には至らなかったが、土層断面観察から立ち上がりを確認できたことにより、湯殿神社裏の河川（水路）跡の広がり（川幅）が確認できた。この河川跡からは、土器と共に習書木簡などの木製品が出土した。また、平安時代後期の水田跡も検出され、当地のこの時期の状況が確認された。

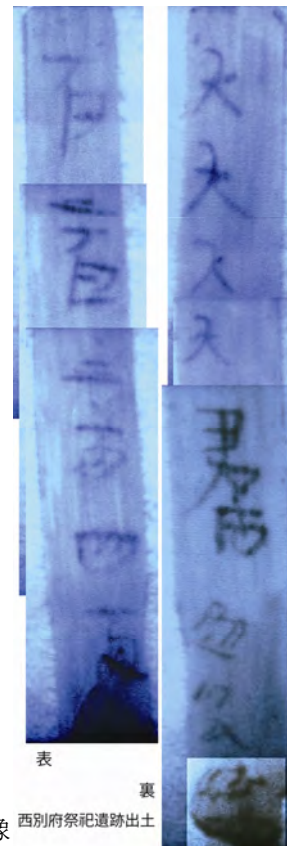
検出された習書木簡は、現地表面下約150cmの河川跡で検出され、表に「百 二百 三百 四百」、裏に「大大大大 君（郡）丙（西）（5文字解読不明）」の記載があり、郡家の雑人等による習書と推定された。この木簡の時期は、共伴した土器から7世紀後半から8世紀初頭と推定され、この時期は幡羅郡家成立前後にあたり、郡家政治の実態解明に直接的に迫ることはできなかったが、非常に興味深いものとなった。

### ③西別府祭祀遺跡出土木簡

- ・法量 最大長 14.2 cm、最大幅 3.0 cm、最大厚 0.6 cm
- ・習書木簡
- ・読下し

(表)	(裏) ※表裏は確定せず
百	大
二百	大
三百	大
四百	大
	君
	丙
	□
	□
	□
	□

または(郡)か  
または(西)か



所見 文字を書き慣れた人の字ではない。字列の軸にブレが見られ、(裏)の上4文字と下5文字は似た字体だが、中2文字と異なる。二人分の筆跡と見受けられる。文字が文意を成していない。(表)の「百二百…」のような表記は郡衙関係に係る行政木簡では見られない。以上のことから、習書木簡と考えられ、推測だが郡家の雑人等の手習いではないか。

(鑑定者 大東文化大学文学部英米文学科准教授 宮瀧交二)



出土トレンチ位置図

木簡出土状況 (上：近接撮影 下：北西から)

